

# 民報 ゆうばり

## 「知らなかった、ぼくらの戦争」りすたで講演会

# 広島在住の詩人アーサー・ピナード氏 日本の常識に警鐘

### 「ことは・絵本を通して『日本のこれからから』を語る

#### 日本の教育は 愚民政策?

9月12日(月) 夕張市拠点複合施設りすたにて、アメリカ・ミシガン州生まれの詩人であるアーサー・ピナードさんの講演会が開かれました。

アーサーさんはニューヨーク州の大学で英米文学を学び、卒業と同時に来日。日本の多様な発音に魅了され日本語で詩を作り始めたそうです。

詩集「釣り上げて」で中原中也賞を受賞。現在は広島に住み、エッセイ、絵本、ラジオパーソナリティ等で活躍、九条の会の会員でもあります。

#### どこから見るのか? どう伝えるのか?

母国アメリカの教育では「広島、長崎への原子爆弾投下は必要で正しかった」と教えられ、「日本で一体何が起こっていたのか分からないまま大人になり、だまされたままだった」と話しました。

広島の原爆資料館で目にした光景に衝撃を受け、実際に被爆者から体験を聴く中で「ピカ」と「ピカドン」という造語が生まれたのかを参加者に問いかけました。

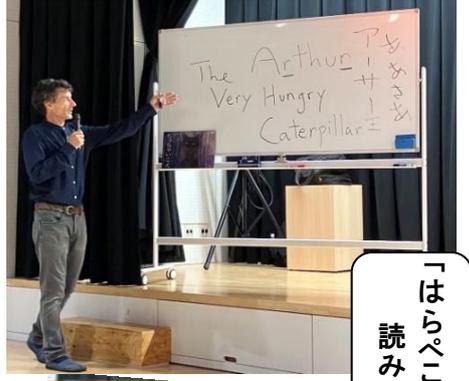
「原爆投下後、下痢や出血、脱毛が次々に起こった時、当時の医者は赤痢を疑い一斉に下痢止めを処方した。爆弾に赤痢菌が仕込まれていた、と噂が流れた。でも、薬を飲んだ人は次々に亡くなった。」

「ありえないことがありえるかもしれない」と本質を見抜く力を問う絵本「ありえない!」を読みませし、原爆の凶を基にした紙芝居「ちっちゃいこえ」を上演。

「はらへにおおむし」の読み聞かせも

「原爆投下後、下痢や出血、脱毛が次々に起こった時、当時の医者は赤痢を疑い一斉に下痢止めを処方した。爆弾に赤痢菌が仕込まれていた、と噂が流れた。でも、薬を飲んだ人は次々に亡くなった。」

「ありえないことがありえるかもしれない」と本質を見抜く力を問う絵本「ありえない!」を読みませし、原爆の凶を基にした紙芝居「ちっちゃいこえ」を上演。



ラジオ番組をもとに23人の戦争体験談を聞き取り、本に収録



「原爆投下後、下痢や出血、脱毛が次々に起こった時、当時の医者は赤痢を疑い一斉に下痢止めを処方した。爆弾に赤痢菌が仕込まれていた、と噂が流れた。でも、薬を飲んだ人は次々に亡くなった。」

「ありえないことがありえるかもしれない」と本質を見抜く力を問う絵本「ありえない!」を読みませし、原爆の凶を基にした紙芝居「ちっちゃいこえ」を上演。

# 夕張市議会報告会 市内3会場で開催

10月3日・4日・5日の3日間、夕張市議会の活動報告会が三会場で行われ、初日の紅葉山会場には紅葉山・滝の上の住民など18名の参加がありました。

議員団からは、①議会運営状況②行政視察の実施内容③議員研修会④市民や各種団体との意見交換会の状況⑤議員定数の推移や議員報酬について⑥議員の仕事内容等について、報告と説明がなされました。



その後、参加者から「新しい診療所では人工透析ができるようになるのか」「今年のレイスイヤ新しいイチヨコレー工場の見通しは？」「歴史村から出る地下

水の有効活用を」「農村部のインターネット環境の改善してほしい」「財政再建後は議員報酬を引き上げ、その分議員は再生の街づくりに全力を」等の質問や意見・願いが出されました。

日本共産党のくまが桂子議員は、人工透析の願いに関して、「透析できる病院を集約するという国の方針の壁がある」と情報提供をしました。「限界集落に近い「限界集落に近い」としてしまおう」「今の行政から未来の夕張の姿がイメージできない」という危機意識や、「再建団体脱した後の再生夕張の街づくりを市民の願いをくみ上げて議員が先頭になつてがんばつてほしい」という期待の声があげられた議会報告会でした。

## くずさんの 夕張歴史散歩(188)



### 石炭のはなし (ズリ山) ③

焼きズリ  
ズリの活用では企業も乗り出していません。一つは「焼きズリ」です。永年積み上げられたズリ山の中は、自然発火し燃えだすことがあります。かつて新夕張鉱から出されたズリを、積み上げた末広地区のズリ山が、燃えだし燻ぶりでした。この消火を待って、焼きこまれたズリを掘り出し「焼きズリ」として、土地の整備や埋め立て、土地の造成に利用しました。



結局は企業としては成り立たなかったのか、しばらくして「焼きズリ」は姿を消してしまいました。かつて石炭繁栄の時期には象徴だったズリ山は、もはや草は萌え、木々も樹木と呼んでよいほどに太く、完全に自然に帰ってしまいました。一見普通の小山と見まごうばかりとなつてしまいました。

### 洗炭ズリ

社光のズリ山も、個々の手による拾い石炭に代わって、大々的に洗炭により低力ロリーの石炭を採取していました。そのためズリ山の姿がすっかり変わってしまいました。現在は、高松側の比較的新しいズリ山で市内の企業が採取しています。



岩渕 友「国会かけある記」  
参議院議員  
岩 渕 友

### 中小企業事業者の声を聞いて

9月末、畠山和也元衆院議員と札幌市内の中小事業者、6つの中小企業団体から物価高騰や円安の影響などについて懇談しました。トモエ醤油でおなじみの福山醸造では、醤油づくりに使う小麦が高騰しているけれど、輸入小麦から国産小麦への切りかえにしか国からの支援がないと話がありました。道産の原材料を使い地元根ざした事業者が支援を受けられない。そのなかで努力を重ねてきたことがよく分かりました。

札幌商工会議所など6団体にはこれまでにない件数と内容の相談が寄せられており、コロナ禍による借入金返済条件の柔軟な変更や独自の支援策で後押ししているとのこと。しかし異常な円安などにより状況が悪化していると聞きました。「精神的にも限界。生活への支援が必要」という声、インボイスを延期してほしいという声も。消費税減税を決断した国と地域は98か国に上つていきます。今こそ消費税減税の決断を臨時国会でも求めていきたい。

合間をぬって、日米合同演習中止、オスプレイ飛行中止を求める宣伝に参加。丘珠駐屯地を拠点として北海道の空を飛び回ります。住宅地で学校や病院が近くにあるというだけで不安です。畠山さんは、昨年午後9時までだった訓練時間が10時までになったこと。しかも訓練に合わせて、日米政府が最低高度を90分に引き下げることで合意したと告発。許すわけにはいきません。みなさんと声を上げていきます。